

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第2回 ●

マニアックな話

今回は、ちよつとマニアックな話を。大体連珠の愛好家はマニアックな人が多いと思うが、ご多分に漏れず、私も変なところにこだわったり、凝ったりしている。そのいくつかを紹介しよう。

○ ボーリング

彦根に転勤する前の話だが、1ヶ月に1〜2回、毎回6ゲームずつ投げていた。スコアはせいぜい150に満たないぐらいでなかなか上達しなかったが、以前なら2ゲームで指が痛くなってきていたのが徐々に6ゲーム投げてても平気になっていったのは、投げ込みが功を奏したためであろう。

○ 目薬

これは連珠と深くかかわりがあるが、その昔定例会

終了時に眼精疲労がはげしくなり、ふらふらの状態に陥ったことがあった。それを救ったのが目薬で、以来薬局に入るといろんな目薬を買って試すようになった。今では、家と職場と携帯用に合計10種類近く目薬を持っている。

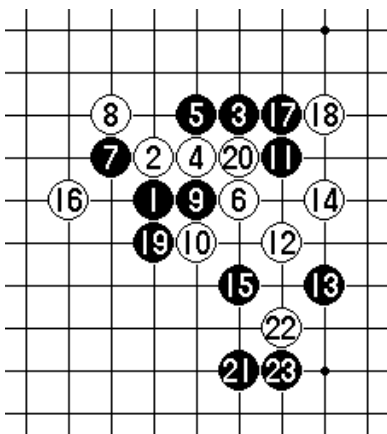
○ マニアックな研究

で、そろそろ本題に入ろう。これまでいろんな研究をしてきたが、結果的に実になり実戦で成功したのは、ひとつの局面を深く掘り下げた研究の場合が多い。最終結論がはっきりしない場合が多いのだが、ある程度の見込みを持っていて、実戦で使う場合その局面になれば非常に有利になる。

最近の研究を紹介しよう。連珠ワールド44号（英語がわからなくてもわかります。貴重な情報が載っていますよ。ぜひ1冊ご購入を）よりだが、送られてきた本をちらちら見ていたら、

● 次の戦譜に目が止まった。

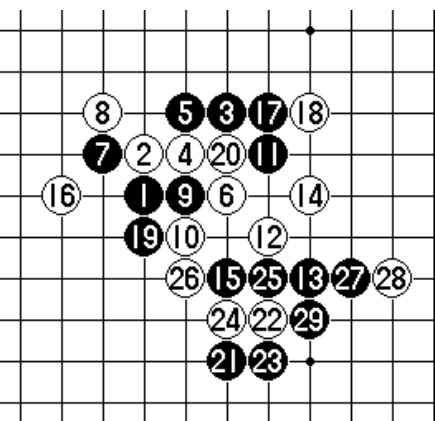
黒勝バーシミン
白 クリマシ



ロシアン・ハイ・リーグと言えば、日本のA級リーグのようなものであろうか。本大会優勝のミハイロフ氏が、世界戦ロシア代表の切符を得ている。

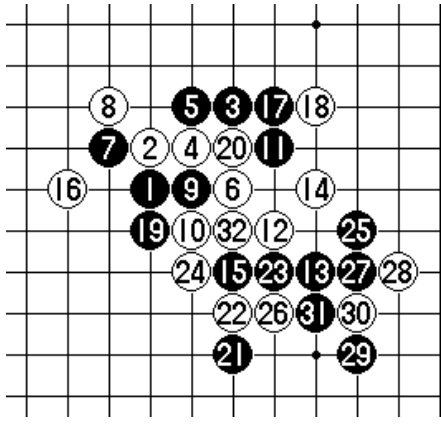
さて、試合は黒23までで簡単に終わっている。疎星の最難局でこんな簡単に勝てるはずはない！と思いついてみることにした。確かに黒23となつては白に防ぎがないようだ。一例を挙げると、白24には黒25とズ

バット引いて以下容易である。他の防ぎも駄目なようだ。

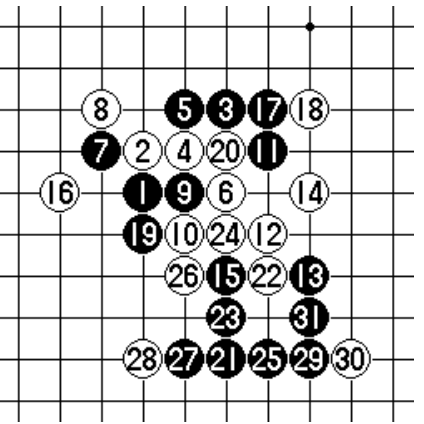


まさか、これで黒勝ち？ 本当？もしそうなら白16が成立しなくなり、結構えらい発見である。本当にそうなのか確かめてみよう。

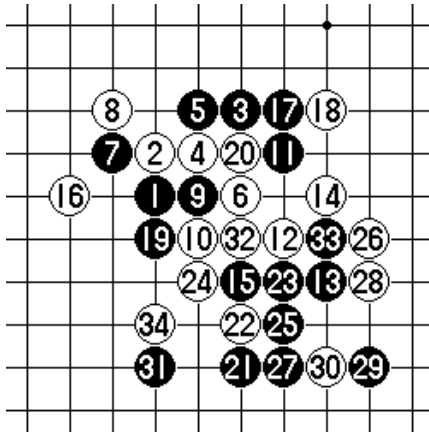
白18を反対、白20を外止めもあるが、それだと白はつらいので、白22で何か防ぎがないか調べてみよう。まずは、強そうに見える白22。これは黒23と引いて比較的容易に勝ちが出る。白24を反対も以下容易。黒25と飛び出せば、下辺が広



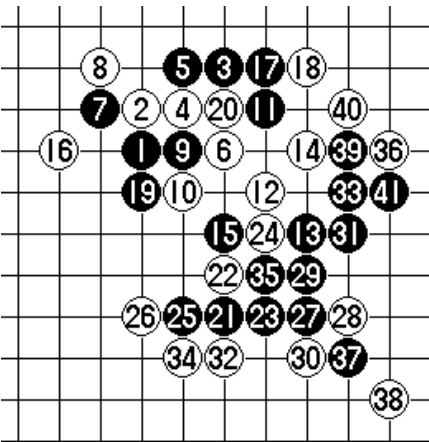
く攻めに困らない。黒31までを示したが、他の攻め筋でも充分勝てるだろう。いろいろ並べるうちに白22が強いということが判明。



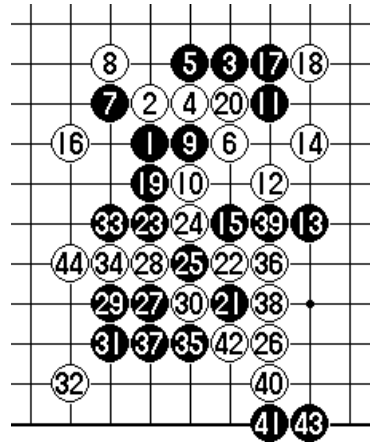
黒25で素直にこちらに三を引きたいが、白26と止められると四ノビ筋ができてうっとうしい。黒27まで打つと白に防ぎがないようだが、白28が四追い含みとなり困る。一旦は黒29でノリ手となるが、再度黒31と含んでも白32、34がきつくとも勝てない。そこで考えたのが呼手案。



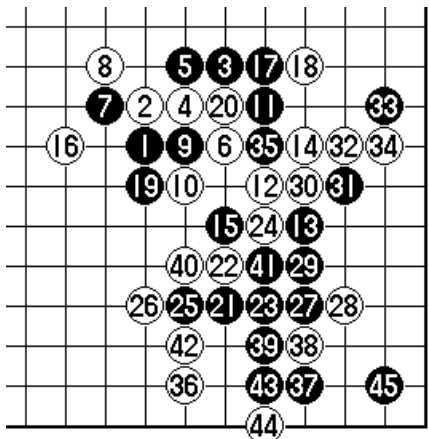
これに対し、黒23から一直線に攻めるのは、難しいようだ。黒25とトビ三から攻めるのは工夫した手だが、白32まで三々ばかりとなりこれ以上は駄目だ。



まず有力なのがこの黒23。白24に対し勝ちが出そうだが、ノリ手があり、どうしても勝てない。黒37で決まったかに見えても、白には40、42の抵抗がある。次に考えたのが黒23。こ



右図白30と止めて四追いを残しても、黒31と止めれば白は36で結局防がなければならぬ。白36が強いが、それでも黒は勝てる。どうやら黒勝ちがでたようだが、白はどこかで19に打っておく所だろう。それだとまた違った展開になる。白16は欲張った止め方なので、慎重に打つ必要がある。



れに対し白24を35なら最初の図に戻る。最初の黒23の呼手からヒントを得たものだが、結構有力のようだ。黒29まで引いて、白30なら黒41まで勝ちが出るし、